

墨俣小学校だより



◇学校の教育目標◇

自分から正しく判断でき、
豊かな心で世界へはばたく子
—校訓 誠実—

HP <http://www.ogaki-city.ed.jp/sunomata/>

学校メールアドレス sunomata@ogaki-city.ed.jp

校門の決意 くつ箱の決意

校長 西田拓郎

連休明けの朝の校門。元気に来る子もいれば、すこし暗い表情で来る子もいます。特に一年生は、やっと学校に慣れてきたと思ったところに、長い連休があったので複雑な思いもあるのでしょう。

一年生のAさんのお母さんは校門まで送っていらっしやいました。ところが、Aさんはお母さんにしがみついて離れようとはしません。

「大丈夫だよ。学校は楽しいから。」

私はそう声をかけましたが様子は変わりません。そこで、そばで見ていた六年生の子に声を掛けました。

「教室まで連れて行ってあげて。」

私がそう言うと、六年生の子たちはAさんのそばによってやさしく声を掛けました。Aさんは、一瞬、おねえさんたちを見ましたが、やはりお母さんにしがみついたままです。

【困ったなあ。どうしよう。】

とうとう、全校の子が校門をくぐり終えました。Aさんはまだお母さんにしがみついたままです。途方にくれた私は、成功するはずがないと思いつつも言ってみました。

「それじゃあ、校長先生と行こう。」

すると、何と、お母さんから離れて、私の手を握ってきたのです。

【何てことだ。うれしい。やっぱり、毎朝、校門に立っていてよかった。】

私は自画自賛しました。Aさんはお母さんを振り返らずに私と手をつないで歩きはじめました。玄関に入り、くつ箱の前にたどり着きました。うまくいったと思いました。

ところが、今度はくつ箱の前で、自分のくつ箱の文字をじっと見つめたまま動かなくなってしまったのです。

「担任の先生を呼んでこようか？」

私がそう言うと、すこし間をおいてから、はじめて首を横に振りました。そして、私の手を離し、上ぐつをはき、教室へ向かって歩き始めました。私の方は振り返りませんでした。階段のそばでは、さっきの六年生がまだ心配そうに見ていました。

教室で自分の席に着くAさんを見ながら、私は思いました。Aさんは校門で私が手を引いたからお母さんから離れたのではなく、ずっとお母さんにしがみつきのながらも一生懸命に心の整理をしていて、そのタイミングでやっと校門をくぐろうと決意ができたのです。そして、もう一度、くつ箱の前で決意をして教室に向かったのです。きっと辛かっただろうけれどもよく頑張ったと思いました。と同時に、私は自分の都合のよいように自画自賛していたことを恥ずかしく思いました。

こどもは、小さな心の中で、いろいろな気持ちと戦い、決意しながら成長していくのだなあと感じました。



衣更して教室も模様替へ

拓郎

引き渡し訓練ありがとうございました

5月16日（木）、三校合同の引き渡し訓練がありました。事前のメール登録や、当日は、小学校から中学校と引き渡しの流れのとおりご協力いただいたおかげで速やかに訓練ができました。ありがとうございました。

ふるさとを愛し、ひたむきにがんばる子がいっぱい

家庭学習の充実を目指して

6月は、PTA 運営委員会の企画で家庭学習強化週間を設ける予定です。家庭での学習について考えたり、見直したりする機会となることを目指しています。よろしくお願ひします。重ねて4月にお配りした家庭学習のすすめをご活用ください。